

# 1年の研究成果発表

## 東雲高3年生 作物の土壌改善など

1年の研究成果を発表する3年生たち(丹波篠山市福住)で



篠山東雲高校の3年生(24人)がこのほど、同校で1年間の課題研究の

成果を発表した。生徒たちは農作物を育てる土壌の改善や、新たな食の可能性などについて研究する様子の写真などをプロジェクターに映しながら懸命に発表した。

ミミズが作物の生育に与える影響を調べたアグリプロゲクト類型の君は、ミミズの有無別の土壌でコマツナを栽培したところ、ミミズがいる栽培区の方が成長が早く、糖度が低くなった

ドウ糖やシロ糖などを吸収し、土壌構造が改善されたと考察し、「これを応用することで生活習慣の改善につながるのでは」と提案した。

「昆虫食を世界に」をテーマに発表したフード・インスティテュート類型のさんは、コロギを使った加工品の認知度向上を目指し、洋菓子にしてコンテストに出

品。校内で昆虫食の認知度や関心についてアンケートし、「あまりコロギを感じなくておいしい」との意見が多く、「可能性を感じた」と発表した。

ウシがサシバエによってストレスを感じ、食欲低下などで肉質が低下していることを知ったアグリサービヒス類型の

さんは、殺虫剤よりも環境にもウシにも優しい対策を研究。論文で忌避

効果があるとされたシマバエがウシに寄り、「卵の段階から対策をする必要がある」と考察。「効果が見られず悔しい。下級生に実験を受け継いでほしい」と期待していた。

丹波新聞  
2022年1月30日